

新編立川市史の刊行の状況について

【経緯】

現在、新編立川市史の刊行は、平成 28 年 3 月 1 日に策定された「立川市史編さん基本方針」の計画にそって進められている。平成 31 年度末までに 4 冊の資料編と 3 冊の調査報告書を刊行し、現在のところは計画通り進めることができている。その一方で、令和元年 5 月から始める予定だった砂川地域の資料調査がほとんど進んでおらず、また、令和 2 年 3 月以降は新型コロナウイルス感染症の流行によって、その他の調査活動も十分に行うことができない状態が続いている。新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないなかで、今後、計画通りに進めていくことがたいへん厳しい状況となっており、8 月 6 日の編集委員会にて刊行計画について意見交換が行われた。

【各専門部会の刊行計画への影響について】

＜先史部会＞コロナの影響で調査拠点の旧多摩川小学校が一時閉鎖となり、資料調査が遅れている。令和 2 年度刊行の調査報告書（大和田遺跡）への影響が大きく、令和 3 年度刊行の資料編のスケジュールにも影響する可能性もある。

＜古代・中世部会＞令和 3 年度刊行の調査報告書「古代・中世編 1」は今のところは計画通りに刊行する予定であるが、調査に遅れが生じている。同「古代・中世編 2」の刊行については未定。

＜近世部会＞砂川地域の資料調査ができていないため、このままでは令和 4 年度刊行の資料編「近世 2（砂川地区）」の内容に影響が生じる。

＜近代部会＞砂川地域の資料は、資料編「近代 1」にも重要。なければ書けない部分も多い。

＜現代部会＞コロナの影響で 4 月以降、資料調査が予定通り進んでいないため、令和 3 年度刊行の「資料編 2」の進捗に遅れが出ている。

＜民俗・地誌部会＞コロナの影響で砂川地区の祭礼、年中行事などがほとんど中止となり、予定していた地区調査ができず、令和 3 年度刊行の資料編「砂川の民俗」の執筆に影響が出ている。

【通史編、全体のスケジュール、その他意見等】

- ・資料編が刊行され、各部会の準備が整わないと通史は書けない。資料編の刊行を遅らせたとしても全体のスケジュールには収まりきらないのではないかな。
- ・資料編のスケジュールだけ調整しても事業最終年度が変わらないため、通史編にしわ寄せがきてしまう。全体スケジュールの延長が必要ではないかな。
- ・通史編と別編を一緒に出すことは難しいのではないかな。
- ・砂川地域の資料が使えない場合のことも考えておかざるを得ない。
- ・資料編は砂川地域の資料なしでも刊行する方法はあるが、同じ方法で通史編が出せるのか。
- ・砂川地域の資料は重要である。市史に掲載すべきである。
- ・砂川地域の資料の件は部会の問題としては解決できない。市の問題として対処すべき。